

1

解答解説のページへ

点 O を原点とする座標平面上において、点 A, B が、 $|\overrightarrow{OA}|=3$ 、 $|\overrightarrow{OB}|=\sqrt{2}$ 、 $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB}=2$ を満たすとする。また、点 A を通り直線 OB と平行な直線上の点 C が $|\overrightarrow{OC}|=5$ 、 $\overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} < 0$ を満たすとする。直線 OA と直線 BC の交点を D とする。次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{OC} を \overrightarrow{OA} と \overrightarrow{OB} を用いて表せ。
- (2) $\cos \angle AOC$ を求めよ。
- (3) $\triangle OAC$ の面積を求めよ。
- (4) $\triangle OBD$ の面積を求めよ。

2

解答解説のページへ

a, b を定数とし, $a \neq 0$ とする。 xy 平面上において, 円 $x^2 + y^2 = 1$ を C_1 とし, 放物線 $y = ax^2 + b$ を C_2 とする。 次の問いに答えよ。

- (1) $a = 2, b = -1$ のとき, C_2 は C_1 の内部を 3 つの部分に分ける。 このうち原点を含む部分の面積を求めよ。
- (2) $a > 0, b < -1$ とする。 このとき, C_1 と C_2 が共有点をもつための条件を a, b を用いて表せ。

3

解答解説のページへ

a_1, a_2, \dots, a_n をそれぞれ 0 から 9 までの整数とし, $a_n \neq 0$ とする。 n 桁の自然数 $a = a_n \cdot 10^{n-1} + \dots + a_2 \cdot 10^1 + a_1$ に対し, a_k を a の 10^{k-1} の位の数という。また, $n \geq 5$ のとき, $a_5 \cdot 10^4 + a_4 \cdot 10^3 + a_3 \cdot 10^2 + a_2 \cdot 10^1 + a_1$ を a の下 5 桁という。例えば, 7 桁の自然数 1234567 の 100 の位の数は 5 であり, 下 5 桁は 34567 である。次の問いに答えよ。

- (1) $(1001)^{15}$ の下 5 桁を求めよ。
- (2) 7^{80} の下 5 桁を求めよ。
- (3) 2 桁の自然数のうち, 1 の位の数と 10 の位の数の和の 2 乗がその自然数自身に等しいものをすべて求めよ。
- (4) 4 桁の自然数のうち, 1 の位の数と 10 の位の数と 100 の位の数と 1000 の位の数の和の 4 乗がその自然数自身に等しいものをすべて求めよ。

4

解答解説のページへ

関数 $f(x)$ を、 $f(x) = x^3 - \frac{5}{3}x$ で定める。 a を正の定数とし、曲線 $y = f(x)$ 上の点 $(a, f(a))$ における接線を l_1 、点 $(a, f(a))$ を通り l_1 と垂直な直線を l_2 とする。次の問いに答えよ。

- (1) 直線 l_1 の方程式を a を用いて表せ。
- (2) 直線 l_2 の方程式を a を用いて表せ。
- (3) 直線 l_2 と曲線 $y = f(x)$ が 1 点だけを共有するとき、正の定数 a のとり得る値の範囲を求めよ。

1

(1) $|\overrightarrow{OA}|=3$, $|\overrightarrow{OB}|=\sqrt{2}$, $\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OB}=2$ のとき, 点 A を通り直線

OB と平行な直線上の点 C は, t を実数として,

$$\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB} \cdots \cdots (*)$$

ここで, $|\overrightarrow{OC}|=5$ から, $|\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}|^2 = 25$ となり,

$$3^2 + 2t \cdot 2 + t^2 \cdot 2 = 25, \quad t^2 + 2t - 8 = 0$$

すると, $(t+4)(t-2) = 0$ から, $t = -4, 2$

また, $\overrightarrow{OB}\cdot\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OB}\cdot(\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}) = 2 + 2t < 0$ から, $t < -1$ と

なるので, $t = -4$ である。

よって, (*) から $\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OA} - 4\overrightarrow{OB}$ である。

(2) $\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OA}\cdot(\overrightarrow{OA} - 4\overrightarrow{OB}) = 3^2 - 4 \cdot 2 = 1$ となるので,

$$\cos \angle AOC = \frac{\overrightarrow{OA}\cdot\overrightarrow{OC}}{|\overrightarrow{OA}||\overrightarrow{OC}|} = \frac{1}{3 \cdot 5} = \frac{1}{15}$$

(3) (2) から, $\sin \angle AOC = \sqrt{1 - \left(\frac{1}{15}\right)^2} = \frac{\sqrt{15^2 - 1^2}}{15} = \frac{\sqrt{(15+1)(15-1)}}{15} = \frac{4}{15}\sqrt{14}$

$$\triangle OAC = \frac{1}{2} \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} \sin \angle AOC = \frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 5 \cdot \frac{4}{15} \sqrt{14} = 2\sqrt{14}$$

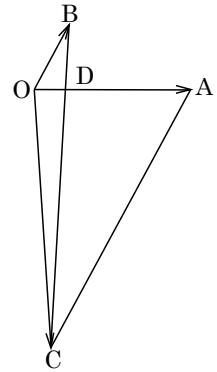
(4) (1) より, $\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OA} = -4\overrightarrow{OB}$ から, $\overrightarrow{AC} = -4\overrightarrow{OB}$ となる。

すると, $OB : AC = |\overrightarrow{OB}| : |\overrightarrow{AC}| = 1 : 4$ となり, $OB \parallel AC$ から,

$$OD : AD = BD : CD = 1 : 4$$

よって, $\triangle OBD = \left(\frac{1}{4}\right)^2 \triangle ACD = \frac{1}{16} \cdot \frac{4}{5} \triangle OAC = \frac{1}{20} \cdot 2\sqrt{14} = \frac{\sqrt{14}}{10}$ である。

問題のページへ



[解説]

基本的な内容の平面ベクトルの問題です。なお, (3)は(2)との関係を考えて, 記述しています。公式処理すると, 代入するだけです。

2

(1) 円 $C_1: x^2 + y^2 = 1$ ……① と放物線 $C_2: y = ax^2 + b$ ……②を連立すると, $y = a(1 - y^2) + b$ から,

$$ay^2 + y - a - b = 0 \dots\dots\dots③$$

ここで, $a = 2, b = -1$ のとき, ③より,

$$2y^2 + y - 1 = 0, (2y - 1)(y + 1) = 0$$

$$y = \frac{1}{2} \text{ のとき, ①から } x^2 = \frac{3}{4}, x = \pm \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$y = -1 \text{ のとき, ①から } x^2 = 0, x = 0$$

さて, 原点と交点 $(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2})$ を結ぶ線分 $y = \frac{\sqrt{3}}{3}x$ と x 軸の正の部分とのなす角は $\frac{\pi}{6}$ なので, 右図の網点部の面積を S とすると, y 軸に関する対称性から,

$$\begin{aligned} S &= 2 \int_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} \left(\frac{\sqrt{3}}{3}x - 2x^2 + 1 \right) dx + 2 \left\{ \frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \left(\frac{\pi}{2} - \frac{\pi}{6} \right) \right\} \\ &= 2 \left[\frac{\sqrt{3}}{6}x^2 - \frac{2}{3}x^3 + x \right]_0^{\frac{\sqrt{3}}{2}} + \frac{\pi}{3} = 2 \left(\frac{\sqrt{3}}{8} - \frac{\sqrt{3}}{4} + \frac{\sqrt{3}}{2} \right) + \frac{\pi}{3} = \frac{3}{4}\sqrt{3} + \frac{\pi}{3} \end{aligned}$$

(2) $a > 0, b < -1$ のとき, C_1 と C_2 が共有点をもつ条件は,③が $-1 \leq y \leq 1$ に実数解をもつことである。

$$f(y) = ay^2 + y - a - b = a \left(y + \frac{1}{2a} \right)^2 - \frac{1}{4a} - a - b \text{ とお$$

くと, ③は $f(y) = 0$ となり,

$$f(-1) = a - 1 - a - b = -1 - b > 0$$

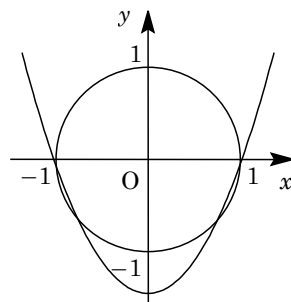
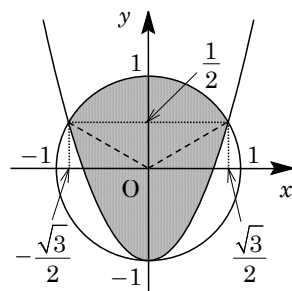
$$f(1) = a + 1 - a - b = 1 - b > 0$$

これより, 求める条件は,

$$-1 < -\frac{1}{2a} < 1 \dots\dots④, -\frac{1}{4a} - a - b \leq 0 \dots\dots⑤$$

 $a > 0, b < -1$ と合わせると, ④⑤から $a > \frac{1}{2}, -\frac{1}{4a} - a \leq b < -1$ である。

問題のページへ



[解説]

放物線と円の関係を題材にした標準的な問題です。なお, (2)は, 2次方程式の解の配置が対応します。

3

問題のページへ

$$\begin{aligned}
 (1) \quad (1001)^{15} &= (10^3 + 1)^{15} = (10^3)^{15} + \cdots + {}_{15}C_2(10^3)^2 + {}_{15}C_1(10^3)^1 + 1 \\
 &= 10^{45} + \cdots + {}_{15}C_2 \cdot 10^6 + {}_{15}C_1 \cdot 10^3 + 1 \\
 &= 10^5(10^{40} + \cdots + {}_{15}C_2 \cdot 10) + 15 \cdot 10^3 + 1
 \end{aligned}$$

これより、 $(1001)^{15}$ の下 5 桁は $15 \cdot 10^3 + 1 = 15001$ である。

$$\begin{aligned}
 (2) \quad 7^4 &= 2401 = 2400 + 1 \text{ に着目すると,} \\
 7^{80} &= (7^4)^{20} = (2400 + 1)^{20} \\
 &= (2400)^{20} + \cdots + {}_{20}C_3(2400)^3 + {}_{20}C_2(2400)^2 + {}_{20}C_1(2400)^1 + 1 \\
 &= 10^5(24^{20}10^{15} + \cdots + {}_{20}C_3 \cdot 24^3 \cdot 10) + 190 \cdot 2400^2 + 20 \cdot 2400 + 1 \\
 &= 10^5(24^{20}10^{15} + \cdots + {}_{20}C_3 \cdot 24^3 \cdot 10 + 19 \cdot 24^2) + 20 \cdot 2400 + 1
 \end{aligned}$$

これより、 7^{80} の下 5 桁は $20 \cdot 2400 + 1 = 48001$ である。

$$(3) \quad 2 \text{ 桁の自然数を } a = 10p + q \text{ (} 1 \leq p \leq 9, 0 \leq q \leq 9 \text{) とおくと, 条件より,} \\
 (p + q)^2 = a \cdots \cdots \textcircled{1}$$

ここで、2 桁の平方数は 16, 25, 36, 49, 64, 81 だけであることに注意すると、

- $a = 4^2 = 16$ のとき $(p, q) = (1, 6)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立たない。
- $a = 5^2 = 25$ のとき $(p, q) = (2, 5)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立たない。
- $a = 6^2 = 36$ のとき $(p, q) = (3, 6)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立たない。
- $a = 7^2 = 49$ のとき $(p, q) = (4, 9)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立たない。
- $a = 8^2 = 64$ のとき $(p, q) = (6, 4)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立たない。
- $a = 9^2 = 81$ のとき $(p, q) = (8, 1)$ より、 $\textcircled{1}$ は成り立つ。

したがって、求める 2 桁の自然数は 81 である。

$$(4) \quad 4 \text{ 桁の自然数を } b = 1000p + 100q + 10r + s \text{ とおくと, 条件より,} \\
 (p + q + r + s)^4 = b \cdots \cdots \textcircled{2}$$

ただし、 $1 \leq p \leq 9, 0 \leq q \leq 9, 0 \leq r \leq 9, 0 \leq s \leq 9$ である。

ここで、4 桁の 4 乗数は $6^4 = 1296, 7^4 = 2401, 8^4 = 4096, 9^4 = 6561$ だけであることに注意すると、

- $b = 1296$ のとき $(p, q, r, s) = (1, 2, 9, 6)$ より、 $\textcircled{2}$ は成り立たない。
- $b = 2401$ のとき $(p, q, r, s) = (2, 4, 0, 1)$ より、 $\textcircled{2}$ は成り立つ。
- $b = 4096$ のとき $(p, q, r, s) = (4, 0, 9, 6)$ より、 $\textcircled{2}$ は成り立たない。
- $b = 6561$ のとき $(p, q, r, s) = (6, 5, 6, 1)$ より、 $\textcircled{2}$ は成り立たない。

したがって、求める 4 桁の自然数は 2401 である。

[解説]

前半と後半の繋がりが感じられない 2 タイプの整数問題です。

4

$$(1) f(x) = x^3 - \frac{5}{3}x \text{ に対し, } f'(x) = 3x^2 - \frac{5}{3}$$

すると、点 $(a, f(a))$ における接線 l_1 の方程式は、

$$y - \left(a^3 - \frac{5}{3}a\right) = \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)(x - a)$$

$$y = \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)x - 2a^3$$

(2) 点 $(a, f(a))$ を通り l_1 と垂直な直線 l_2 は、法線ベクトルを $(1, 3a^2 - \frac{5}{3})$ とすることができ、その方程式は、

$$(x - a) + \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left(y - a^3 + \frac{5}{3}a\right) = 0$$

$$x + \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)y - 3a^5 + \frac{20}{3}a^3 - \frac{34}{9}a = 0 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

(3) ①は $(x - a) + f'(a)\{y - f(a)\} = 0$ と表せることから、 $y = f(x)$ と連立すると、 $(x - a) + f'(a)\{f(x) - f(a)\} = 0$ となり、

$$(x - a) + \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left\{\left(x^3 - \frac{5}{3}x\right) - \left(a^3 - \frac{5}{3}a\right)\right\} = 0$$

$$(x - a)\left\{1 + \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left(x^2 + ax + a^2 - \frac{5}{3}\right)\right\} = 0$$

$$(x - a)\left\{\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)x^2 + a\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)x + 3a^4 - \frac{20}{3}a^2 + \frac{34}{9}\right\} = 0 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

直線 l_2 と曲線 $y = f(x)$ が 1 点だけを共有する条件は、②の実数解が $x = a > 0$ だけということである。

そこで、 $g(x) = \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)x^2 + a\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)x + 3a^4 - \frac{20}{3}a^2 + \frac{34}{9}$ とおくと、

(i) $g(x) = 0$ の解が $x = a$ だけのとき

$$\begin{aligned} g(a) &= \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)a^2 + a\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)a + 3a^4 - \frac{20}{3}a^2 + \frac{34}{9} = 9a^4 - 10a^2 + \frac{34}{9} \\ &= 9\left(a^2 - \frac{5}{9}\right)^2 + 1 > 0 \end{aligned}$$

これより、 $g(x) = 0$ は $x = a$ という解をもたないので、不適である。

(ii) $g(x) = 0$ が実数解をもたないとき

(ii-i) $3a^2 - \frac{5}{3} = 0$ ($a = \frac{\sqrt{5}}{3}$) のとき

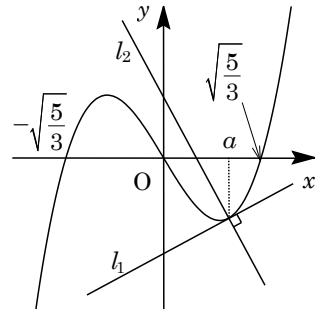
$g(x) = 3 \cdot \frac{25}{81} - \frac{20}{3} \cdot \frac{5}{9} + \frac{34}{9} = 1$ となり、 $g(x) = 0$ は実数解をもたないので適する。

(ii-ii) $3a^2 - \frac{5}{3} \neq 0$ ($a \neq \frac{\sqrt{5}}{3}$) のとき

$g(x) = 0$ が実数解をもたない条件は、判別式 $D < 0$ より、

$$a^2\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)^2 - 4\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left(3a^4 - \frac{20}{3}a^2 + \frac{34}{9}\right) < 0$$

問題のページへ



$$\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left\{a^2\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right) - 4\left(3a^4 - \frac{20}{3}a^2 + \frac{34}{9}\right)\right\} < 0$$

$$\left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left(9a^4 - \frac{75}{3}a^2 + \frac{136}{9}\right) > 0, \quad \left(3a^2 - \frac{5}{3}\right)\left(3a^2 - \frac{8}{3}\right)\left(3a^2 - \frac{17}{3}\right) > 0$$

これより, $\frac{5}{3} < 3a^2 < \frac{8}{3}$, $\frac{17}{3} < 3a^2$ となり, $\frac{5}{9} < a^2 < \frac{8}{9}$, $\frac{17}{9} < a^2$

よって, $a > 0$ から, $\frac{\sqrt{5}}{3} < a < \frac{2}{3}\sqrt{2}$, $\frac{\sqrt{17}}{3} < a$ となる。

(i)(ii)より, 求める a の値の範囲は, $\frac{\sqrt{5}}{3} \leq a < \frac{2}{3}\sqrt{2}$, $\frac{\sqrt{17}}{3} < a$ である。

[解説]

接線と法線を題材とした問題です。ただ, (3)は方針が立てやすいものの, 計算量は半端ではありません。なお, (2)では場合分けを避けるために, 法線ベクトルを利用して立式しています。